

令和4年度 第1回福井県嶺南地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：令和4年7月4日（月）14：15～15：50

場 所：リブラ若狭 講堂

1 開会

2 あいさつ

福井県 堤交通まちづくり課長

3 報告

(1) 福井県嶺南地域公共交通活性化協議会規約および委員の変更について

- ・事務局より資料1説明

4 議事

(1) 令和3年度事業報告および決算報告について

- ・事務局より資料2説明
- ・監事より会計報告
- ・異議なし、原案のとおり承認

(2) 令和4年度事業計画案および予算案について

- ・事務局より資料3説明
- ・異議なし、原案のとおり承認

(3) 網形成計画の各事業の進捗状況について

- ・事務局より資料4説明

川本会長

- ・交通事業者から現在の利用状況や今後の見込み等について、情報提供をいただけたらと思います。

JR西日本

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、非常に厳しい状況である。小浜線の2021年度の年間利用者数は、2020年度と比べ減少、定期利用者数は少し増えている状況である。小浜線は、今年12月で全線開業100周年を迎えるということで各種イベントの調整にご協力いただいている。具体的に申し上げますと、「丹後くろまつ号」の運行やサイクルトレインなどのイベント列車等があり、今後ともお力添えをお願いします。

福井鉄道

- ・自動車事業の全体の数字を申し上げますと、路線バスは、2021年度は2020年度比では若干回復、コロナ前の2019年度と比較すると約2割減の状態である。貸切バスは、2021

年度は2020年度比では回復はしているが、コロナ前の2019年度と比べると約3割減となっている。嶺南地域で、当社が運行しているのは2路線あり、若狭線、菅浜線があるが、こちらも減少している状況である。

- ・昨年度、実証実験をさせていただいたゴコイチバスだが、利用者からは大変好評であった。ただ、周知不足の部分もあったため、福井県内だけでなく、県外への周知も必要と考えている。

西日本ジェイアールバス

- ・全体の数字だが、高速線の収入が全体の8割程度を占めているが、直近のゴールデンウィークの輸送状況だが、2019年度コロナの影響を受ける前の同曜日比較でいくと、約60%しか回復していない。残り40%の回復は見込んでおらず、コロナ前の約80~85%までしか回復しないと想定している。また、在来線も含め運転士の確保が非常に困難を要している。運行するためには、車と乗務員が必要であるが、乗務員が不足しているため利益率の高い方面の便に運転士を回すという輸送計画を行っている。路線によっては、収入の回復が悪いところについては、共同運行会社に全面運行を依頼するなどして限られた乗務員の数で収益率の高い方面に力を入れている。
- ・近江今津営業所では、2018年度の平均乗車人数から比べると、約半分に減っている。これは、コロナの影響を受ける前から右肩下がりを描き続けている状況である。同時に運転士の確保も、かなり困難を要している。現在は運転士7名が在籍しているが、平均年齢が58.6歳となっており、今後も平均年齢が下がっていくのは難しいと考えている。今後の運行を維持するための運転士の確保は、かなり高いハードルだと考えている。
- ・また、近江今津営業所の6月の運輸収入だが、コロナの影響を受ける前の2019年度と比べると、89.8%まで回復している。交通系ICカードの利用について、平成27年の9月から運用を始めたが、同月比で今年度は過去最高の売上げとなった。一方で現金扱いの戻りが弱い。具体的にはビジネス利用が全く回復しない。外国人観光客の利用はほぼジャパンレールパスだが、6月に1、2件あった程度で回復までには時間がかかると考えている。

大和交通

- ・路線バスについては、名田庄流星館から小浜二中まで1日6往復運行している。主に学校の生徒や朝の通勤・通学時間帯以外では高齢者の買い物・病院でほとんどを占めている。ただし、徐々に乗客が減りつつあり、そこにコロナの影響でかなり落ち込んだ。令和2年4月から令和3年3月までと令和3年4月から令和4年3月までを比べると、乗客の方が6.2%増えてきている。今年の4月から6月までで、前年比では、4月が115%、5月が111%、6月が97%となっていて、平均で7.6%増えている状況である。ただ、コロナの前と比べると回復の状況には至っていない。今の数字が本当の数字なのか、果たしてコロナ前までに戻るのかどうか、はっきりつかめていない。今後、いろんな工夫をしながらやっていきたい。おおい町の名田庄地区でデマンドタクシーをやろうかという

話が出ている。それを名田庄地区内の枝線という形で、私どもの路線バスに乗り継ぎしてもらえれば乗客も増えるのではないかと半分期待、半分不安もあるが、協力しながらやっていく。

- ・貸切事業は、コロナの影響でほとんどないような状況がずっと続いてきた。ただ、どちらかというと観光よりも送迎事業を中心にやってきた。学校のスクールバスの送迎や結婚式の送迎をやってきた。貸切事業はコロナの影響はほとんどなかったと感じている。
- ・乗務員の確保が難しいという悩みがある。去年の12月から半年で5人辞めている。あと2年3年のうちに何人辞めるかと、考えると恐ろしくなる状況である。

川本会長

- ・続きまして、自治体の方から資料があるものも併せて、資料4の昨年の状況と今年の手続きについて、お話いただきたい。

敦賀市

- ・キャッシュレス化の推進だが、コミバス等のキャッシュレス化について、検討してきた。今年度は、備品（バスIC車載機システム）の購入等を進めているところである。
- ・北陸新幹線敦賀開業に向け、駅前の整備を進めている。今年9月1日に敦賀駅西地区のホテルがオープンとなり、その周辺の「otta」という施設がオープン予定となっている。また、敦賀開業に向けて盛り上げていきたい。
- ・シェアサイクルだが、令和3年度は新たに拠点を整備した。令和元年度は駅前周辺を中心市街地を中心に整備を進めていた。そこから広域の拠点を設け、日本海さかな街や気比の松原の2か所に新たにサイクルポートを設置した。今年度は、市民等の交流拠点である敦賀市の新庁舎の外構整備を予定しており、そこに1か所増設する予定をしている。

美浜町

- ・キャッシュレス化について、令和4年度はコミバスのキャッシュレス化を進めている。
- ・JR美浜駅前に道の駅を整備しており、令和5年春には開業予定となっている。それに合わせて、美浜駅の改修と駅前ロータリー化など整備を進めている。また、道の駅の中にデジタルサイネージを設置し、各市町へのご案内やダイヤの案内等を計画している。
- ・三方五湖周辺のサイクリングロードの路面標示の整備も予定している。
- ・小浜線の利用促進として、令和3年度にイチゴ農園との連携で小浜線を利用して美浜駅に来ていただいた方に観光農園の入場券の半額助成を実施した。合計で2か月ほどの事業であったが、783名の利用をいただいた。

おおい町

- ・令和3年度は、若狭本郷駅前について通行者の利便性を向上させた。令和4年度は、駅前広場の融雪装置の更新を行っている。
- ・若狭本郷駅が100周年ということで、令和3年度にイベントを開催した。令和4年度は、

小浜線 100 周年ということで、ミニイベントを予定している。

- ・メールで事前に情報を配信し、皆様に周知しているところである。
- ・(うみりんスマイル号について、資料説明)

川本会長

- ・うみりんスマイル号は、免許返納の方に対して、1 回 300 円助成があるとのことだが、期限はいつまでか。

おおい町

- ・申請をいただいて、決定をして 5 年という期限付きである。

川本会長

- ・現時点でのその制度の利用人数は。

おおい町

- ・昨年 10 月からの制度で、デマンドバスの割引の認証を受けたのは、26 名となっている。

川本会長

- ・利用時間は、他のところだと偏るが、どこかに偏るということではないようだ。

小浜市

- ・令和 3 年の 7 月から小浜市の公共交通計画策定に着手し、1 年間かけて、先月に策定した。それに基づいて、今年度は、デマンド交通の実証実験を予定している。循環バスも併せて行う計画をしている。デマンド自体が地域にあっていいのか検証する。循環バスについては、市民のアンケートや聞き取りを行い、市街地の病院や市役所、ショッピングセンターの循環バスが欲しいという希望があり、実証実験を行う。
- ・小浜線の QR コードスタンプラリーを実施した。併せて、ウェブサイトを作成し、サポーター制度を設けた。
- ・今年度は、小浜線利用促進協議会で観光庁の補助事業を申請し、採択を受けた。車内でスマホでみられる沿線観光動画や VR を活用した動画など、制作していこうと考えている。また、100 周年事業ということで、観光庁と小浜線利用促進協議会の事業をあわせて、サイクルトレインや企画列車の運行、100 周年のイベントを実施していく。具体的には詰めているところである。
- ・昨年度は、小浜線 de 遠足ガイドを作成し、これを各市町の小中学校に配布したところである。今年度は、福井新聞社の図画コンクールでタイアップしたコンクールを開催予定である。小中学校単位で公募している。
- ・団体助成は、新たに親子乗車で 80% の助成や 65 歳以上は 20% 助成を実施している。サポーターになられた方は、さらに 2% 上乗せして助成をしたいと考えている。

若狭町

- ・民間団体ほっとむらだが、十村駅の駅舎が取り壊されるという話がでてきて、地元の住民が主体となって運営することとなった。現在、コミュニティカフェを運営している。令和3年度に県補助金の支援を得ながら、活性化を図った。
- ・駅舎のトイレ改修を町として実施している。また、十村駅の Wi-Fi の整備を実施し、十村駅も充実した内容になったかと考えている。
- ・上中駅の会議室がずっと空いている状況であったため、登録すればスマートフォンで鍵の開錠施錠できるようなコワーキングスペースを設けた。現在、宣伝しながら登録者を増やしているところである。また、上中駅内のストリートピアノを先月設置した。自由に使っていただいて、構内を盛り上げていただきたい。
- ・校外学習の運賃助成を昨年の11月から実施した。部活の遠征で活用されて、好評だったため今年度も実施していく。
- ・三方駅から熊川宿間の補完バスの実証実験を実施した。ゴールデンウィークの3日間で、どちらも3万人を超える観光客が来ている。バスを動かすことで、うまく人の流れをつくりたい。ただし、周知不足で利用者数が少なかった。今年度は、熊川駅、三方駅、レインボーラインまで行こうと計画している。
- ・(ゴイチバスについて、資料説明)

高浜町

- ・(グリーンスローモビリティについて、資料説明)
- ・グリーンスローモビリティの周知のため、老人会のサロンをまわり周知している。乗り方のPR動画を作成し、ユーチューブやケーブルテレビで放送している。
- ・観光イベントも今年度から再開する。芝桜やオープンガーデンのイベント等をグリーンスローモビリティでまわるツアーを実施し、大変好評をいただいた。観光利用については、今後面白い状況になっていくのではないかと期待している。

(4) 網形成計画の達成状況について

- ・事務局より資料5説明

川本会長

- ・達成状況資料の2番に記載のある「嶺南地域を回る際に公共交通を利用する観光客の割合」とあるが、策定時の数字があるが、どこかのタイミングでアンケートの予定はあるのか。

事務局

- ・現在の計画は令和6年度までとなっており、次期計画策定の際には、調査をしていこうと考えている。

川本会長

- ・事業者と市町には取り組み状況などは発言いただいたが、その他の委員にもご意見をいただきたい。

嶺南広域行政組合

- ・若狭路直通列車は今年の3月20日に嶺北からの直通列車ということで開催した。各市町には駅でのおもてなしやプレゼント商品などご協力いただいた。今年度は、秋に開催したいと考えている。
- ・また、新幹線敦賀開業に向け、敦賀駅舎でデジタルサイネージの設置の準備を進めている。場所は、2階のコンコース、ちょうど新幹線の改札を出たところであり、交通情報や観光情報を提供する予定で検討している。最近は、乗り換えは楽しいという発想も必要という意見があるため、乗り換えを楽しめるような工夫ができればと考えている。
- ・組合の補助金として、去年の小浜線の減便問題や今年の小浜線全線開業100周年を迎えるので、各市町に当組合の補助金を使っていただくため、補助額を大きく上乗せした補助制度を設けている。

野村委員

- ・小浜市の交通計画が策定されたので、地域住民にいかに理解してもらうかが重要と考えている。
- ・国道だが、橋の架け替えするために区民や学生が不便するような課題が出てくると思うので、意見を吸い上げて当局へ伝えたい。

川本委員

- ・オブザーバーにもご意見をいただきたい。

舞鶴市

- ・直接、網形成計画に関係することではないが、舞鶴市の方でJRの利用促進をやっている。去年の3月に導入されたICOCAを利用した場合、運賃の10%を還元する仕組みや特急列車を利用して京都市内のサッカーの京都サンガFCを応援しに行こうといった企画ツアーを実施している。今年、小浜線100周年の年であり、くろまつ号などイベントを実施されるということなので、連携していけたらと考えている。

嶺南振興局（若狭）

- ・住民の方には、生活に欠かせないインフラとして重要性を改めて意識していただくことが大事であり、その意味において、モビリティマネジメントに関するイベントや乗り方教室の取り組みが重要と考えている。
- ・一方で、新幹線開業まで2年を切り、小浜線などを利用して嶺南地域にも開業効果を広く

行き渡らせる必要がある。5月に嶺南誘客キャンペーンを立ち上げたところであり、その中で、小浜線の活用も含め取組みを進めていく。

嶺南振興局（二州）

- ・コロナ禍ということで実績があがってこないところもあるが、コロナが収まれば実績がついてくると考えている。

中部運輸局

- ・各市町では、単独で交通計画を策定し、いろいろと取り組んでいただいているが、嶺南地域全体でも広域の網形成計画が策定されているので、各市町がバラバラではなく連携をもった取組み・交通計画の策定をしていただきたい。
- ・(資料4) 網形成計画施策一覧のスケジュールにおいて、令和3年度まで「検討、調整、準備」となっている項目については、今まで検討されて出てきた課題等を洗い出して、予定通り今年度より本格実施を進めてほしい。せっかく各市町が連携した協議会があるので、それぞれの取組みの課題等を共有していただき、より効果的に実施していただきたい。

福井運輸支局

- ・バスの運転士の確保だが、今月の24日にバスの運転士の採用説明会と体験会を実施する。去年はコロナでできなかったが、2年前から始めている。
- ・公共交通を活性化させるためには、人材確保が重要となってくる。人がいないと公共交通は動かすことができない。市町の方には、案内を配ったり、窓口に置いていただいたり、周知・広報していただきたい。募集をしているが、参加希望が思ったより少ない状況である。先週末に、福井新聞ぷりに広告掲載したが、今後も周知・広報していく。公共交通については、各自治体と連携しているんなことを取組んでいきたい。

川本委員

- ・追加で何かありましたら、お願いしたい。

福井鉄道

- ・先日、落雷があり当社の鉄道が運休した。代行バスを走らせることにしたが、その運転手がなかなか確保できなかった。最終的に確保でき代行バスを出せた。当社は乗務員を確保するためにホームページなどに募集掲載しているが、厳しい状況である。
- ・県外のバス運転士経験の方から、3名ほど応募があり、採用させていただいた。県外の方のため、当社は福井、武生、敦賀、小浜と営業所を持っているが、配属先を検討した際に、敦賀市の手厚い助成があったため、2名を配置させていただいた。
- ・支援制度を調べていくと、県はチャレンジ支援金を実施し、それにプラスしての市町の支援だが、嶺北の市町が多い印象である。空き家対策で支援している市町もある。Iターン支援、Uターン支援をさらに見直していただきたい。

川本会長

- ・これは交通事業者に限らない話ではあるが、新幹線開業を迎えたときに、ベースになるものであるから、県や市町でいろんな策を考えていただけたらと考える。

5 閉会